若手社員の1日

管清工業

安全で快適な生活環境を支える

東京本部 公共事業部 技術課　**井上　舞**さん

■自由な社風に魅力

管清工業は管路管理のパイオニアとして、都市の静脈となる下水道の機能を守るべく建物の排水設備や公共下水道施設の点検・調査・清掃・補修などを担い、安全で快適な生活環境を支えている。昨年には、昭和37年の創業から60周年の節目を迎えた。

入社3年目となる井上さんが所属する技術課は、ストックマネジメント計画・総合地震対策計画・下水道BCP・雨水管理関連計画などの計画策定業務のほか、管路施設等の包括的民間委託の提案や業務サポートなどの官民連携業務、不明水対策や管路施設の維持管理データの活用に関する提案などを行っている。

学生時代は美術大学でグラフィックデザインを専攻し、視覚に訴える伝達表現である〝ビジュアルコミュニケーション〟の思考や技法を学んだ。就職活動では、クリエイティブ系の業界などに視野を狭めず「まだデザイン分野が普及していない、新しい場所で自分の能力を発揮したい」と幅広い分野に目を向けた。ホームページで見た管清工業は下水道インフラを支えるというやりがい、安定性とともに、「自分の能力を発揮するために、自由に伸び伸びとやりたい仕事ができそう」と自由な社風に心を惹かれ、入社を決めた。

■手厚いサポート体制

入社後は、主にIllustrator、Photoshopなどの画像編集ソフトを活用した資料作成・リデザイン、ドローンで撮影した映像の編集作業などを行っている。時期によっては現場に赴き、ドローン飛行による水管橋などの施設点検も担う。

土日祝日が休みのため友人との予定も合わせやすく、有給休暇も取得しやすい環境になっている。友人との食事や旅行、釣りなどでアクティブに過ごすことが多い。「下水道展」や「下水道管路管理技術施工展」など年に数回の出張機会は楽しみの一つだと話す。

■風通し良い職場

「当社の特徴は風通しが良いことですね。上司の方に意見も含めしっかり話を聞いてもらえるので、コミュニケーションが取りやすく自分がやりたいと思ったことに取り組める環境になっています」と快適な職場環境は大きな魅力だ。「果敢に挑戦してみたい方は、ぜひ当社を選んでもらいたいですね」と朗らかに話す。

「学生の方にとって、これから社会人になって仕事をしていくことだけでも不安に感じると思いますが、皆さんが心配している以上に職場の方々は優しく迎え入れてくれると思います。リラックスして自分にできることを一つずつこなしていくことを目標に、一緒に頑張っていきましょう」と自身が多くの人に支えられた経験を基に、今度は迎え入れる側として積極的に支えていくつもりだ。

会社の支援制度で国家資格取得

今年度、ドローン操縦の国家資格を取得した。管清工業では個々の能力向上、ステップアップを応援するため、資格取得支援制度を設けており、「普段の業務がある中でも、社員が資格を取得できるよう会社が後押ししてくれることは当社の魅力の一つ」と井上さん自身も会社から手厚いサポートを受け、スキルアップに注力できたという。

自治体向けにドローン操縦のデモンストレーションを行う機会があり、井上さんが実際の操縦や製品説明を担当した。「ドローンで何ができるか、何が見えるのか、そういった専門知識を説明した時にやりがいを感じます。テレビなどいろいろな場面で目にする機会が増え、普及しつつあるとは言ってもドローン自体、まだ珍しいものなので自治体職員の方々の反応が新鮮でとても楽しいですね」と井上さんならではのオンリーワンの仕事に日々、充実さを感じている。

ドローンとともに

1日のスケジュール

8:30	出社 朝礼の後、ラジオ体操を行う メールのチェック、今日の予定の確認
9:00	事務処理をする
10:30	ドローンの点検作業 プロペラやバッテリー、飛行のチェック
12:00	昼食
13:00	デスクでExcelでの作業 Illustratorで図を作成
17:30	退社

水道機工

プラント事業部 企画開発部開発1課　**吉村　玖瑠美**さん

高い技術力で前例なき創造を

用途に合わせ処理プロセス構築

■水処理技術に惹かれ

大学時代、水環境工学の講義で水処理技術の面白さに知的好奇心を刺激されたという吉村玖瑠美さん。浄水場や下水処理場見学を通して、「さまざまな技術を組み合わせて用途に合わせた処理プロセスを構築していること」を知り、日本の高い水処理技術に感動。自身もそうした技術開発に携わりたいと考えるようになった。

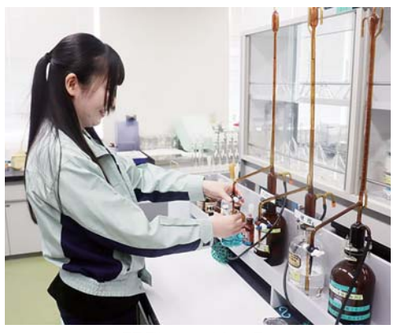
水道機工を選んだ決め手は入社説明会での座談会。当時は各部署の幅広い年齢層の社員が参加しており、「若い方からは社風や親しみやすさを、ベテランの方からは業務や会社の技術について聞くこと」ができたという。高い技術力をバックボーンに新たな創造を続ける社風や年齢を問わずそれを生き生きと話す社員の姿、情熱が吉村さんの琴線に触れた。また、関東近辺での就職を希望していたこともあり「基本的には世田谷区内の本社勤務で、全国の各案件に携われること」も魅力的だった。

■高い壁を乗り越え

出社後、毎日9時から課内のミーティングに参加し、前日の業務状況を報告。その後、1日のスケジュールを共有するのが日課だ。所属する企画開発部の業務は主に浄水場向けの新しい装置や設備の開発。開発と言っても、類似製品や特許に関する情報収集や装置のスペック、開発コンセプトの検討、新しい装置の設計や製作、性能評価のための実験など多岐にわたる。実験を行う日は1日のうち大半を実験室で過ごすが、吉村さんは「設計から設備の完成までの間に特に楽しさとやりがいを感じます。設計時点で想像していた通りに完成したときは嬉しいです」という。一方で、業務には水処理の知識だけではなく機械系の知識が必要になる。そういう時は「専門知識を豊富に持つ先輩たちに、基礎を教えてもらったりアドバイスをもらったりしています」。

過去には前例のない装置の開発に携わった。その仕様も日本初だったため、第三者機関の審査を通過するのにかなり時間を要したという。「当時はとても大変でした」という言葉とは裏腹に快活な表情で当時の業務を振り返る姿が印象的だ。その時は審査を受ける前段の装置の性能試験なども含め実験設備の設計から工事の手配、完成後の評価や試験など開発に係る一連の流れを経験。この経験は技術者としての知見を増やすだけでなく、これまでとは異なる視座から全体を見られたことで、業務遂行への進捗を管理する力を学ぶ契機になった。

綿密な検討を



開発に向け実験

■目標に向かう原動力

入社6年目を迎えた今の目標は「自分が開発した装置や設備が浄水場に納入され稼働している現場を見ること」。「まだ開発に携わったことのない分野にも挑戦すること」。まだ、自分が開発責任者になって設備を浄水場に納入した経験はないが、課の先輩や同僚が試運転などに立ち会う様子を見て、次は自分の番だと意気込む。

業務に必要な知識は枚挙にいとまがないが、吉村さんは「仕事とプライベートの切り替えがはっきりしている方」だと笑顔を見せる。また、会社には「比較的有給休暇を取りやすい雰囲気がある」そうで、「自分で業務を調整して、趣味を楽しんでいる社員が多い」という。吉村さんも休日には応援しているアーティストのライブに参戦し、リフレッシュ。チケットが当選した時は東京を中心にライブに参加し、〝推し〟からパワーをもらう。好きなアーティストの存在も日々業務に励む原動力になっている。

■自分に合うものを

自身は水業界に絞った就職活動をしていたと前置きしながらも、常に軸にしていたのは「インターンシップや説明会」に参加すること。水業界といっても、業種は多岐にわたる。業界の「どこで」活躍したいかも大事だが、まずはそれぞれの会社が持つ「社風」を感じ取ってほしいと話す。人間関係、評価や価値観、仕事の進め方、雰囲気など、多面的な観点から構成されているものだからこそ、水業界に興味を示す学生たちへは「枠を狭めず、積極的に参加し自分に合うものを見つけてほしい」とメッセージを送った。

1日のスケジュール〈実験のある日〉

9:00	出社後、課内ミーティング （前日の業務報告、 当日のスケジュールを共有）
10:00	実験準備
12:00	昼休み
13:00	実験
16:00	片付け、データ整理、 日報作成など
18:00	終業 （実験内容によっては18時以降も 納得のいくまで作業することも）